



連載:これで納得、子どもの薬あれこれ①

・アスピリンなどの鎮咳剤“咳止め”

1週間位の多くの乾性咳嗽(“コンコン”といった乾いた咳)は、ほとんどが上気道のウイルス感染が原因です。このため、体の防御反応である咳を原則治療する必要はなく、アスピリンなどの咳止めを頻回に使用すると痰の排出を妨げかえって防御反応を抑えるため“かぜ”を逆に長引かせることとなります。

・“かぜ” “上気道炎” と抗生物質

“かぜ” や “上気道炎” の原因のほとんどがウイルスです。抗生物質は、細菌には効果がありますが、ウイルスに対しては効果がありません。このため、“かぜ” や “上気道炎” には原則抗生物質は必要ありません。ただ、“かぜ” と言われたのに抗生物質が出されることは時々あります。これは、“かぜ” は、「上気道炎」「気管支炎」が含まれたり、こどもは細菌の二次感染が多いため、抗生物質が必要な場合はよくあります

・“かぜ” と抗ヒスタミン剤(抗アレルギー剤)

抗ヒスタミン剤は、“かぜ” の鼻水の薬“風邪薬”として1950年前後から使用されてきましたが、その効果についてはっきりしていませんでした。最近発熱時に抗ヒスタミン剤を使用すると“けいれん”を誘発しやすいことが分かりました。特に「ペリアクチン」「ザジテン」などの抗ヒスタミン剤は脳内へ移行しやすいため、脳内へ移行しにくいゼスラン、シルテック、アレロック、エバステル、アレジオンなどの抗ヒスタミン剤を使用しています。また、鼻粘膜の炎症を伴わない鼻水には効果がありません。このため、鼻粘膜の炎症があるかどうかを診てから抗ヒスタミン薬を出しています。



子どもの健康 —臍ヘルニア—



- いわゆる“でべそ”で、産まれた直後には目立たなく、一か月健診のころに目立ち始めます。
- 自然に治ることが多いので、以前は放っておきましたが、治らない例は手術が必要になりますし、自然に治ってもお臍の形が悪いことがありました。
- スポンジで圧迫すると早く治り、治った後のお臍の形がきれいで、治る率も高いです。
- 特殊なスポンジとフィルムを使って圧迫しています。1回/週の交換が必要です。



岡崎市民病院からのお知らせ

- 1月6日(月)から、午前8時から午後10時の間に子どもが市民病院を受診した場合、非紹介加算(2,100円)の負担が必要になりました。
- 紹介状を持って受診した方、診察の結果入院となった方への負担はありません。
- これは、市民病院は、3次医療機関として重篤な患者さんや救急を要する患者を救う重要な役割を担ってるためです。
- 当院の診療時間外などの場合は、夜間急病診療所や岡崎市の発行する「[こども救急ハンドブック](#)」を利用してください。とっても役に立ちます。